

2026(令和8)年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧(2026年3月)

地域文化演習(3年選択必修)

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
小田匡保	A	歴史地理・文化地理の論文講読と地域調査	前期は、発表担当を決めて、歴史地理・文化地理を中心に人文地理学の論文講読を行なう。後期は、10月に3泊4日で地域調査を行なう。場所は、山梨県甲府市を予定している。テーマは、農業、地場産業、商業、交通、観光など、グループまたは個人で設定する。最終的には調査報告書をまとめる。	水・5

地域文化調査法(3年選択必修)

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
西山弘泰	B	郡山市の産業構造	福島県郡山市	5月上旬、9月上旬 ※上記以外にも現地 に赴く可能性がある	調査対象の福島県郡山市は、非県庁所在地でありながら、福島県第一の人口を有する都市である。本調査法では、郡山市の雇用を支える産業構造の実態や課題を明らかにしていく。 調査は、①各種文献・資料、統計などにより郡山市やその周辺地域の現状を把握、②調査計画を立案、③現地調査の実施(9月上旬)、④調査結果のとりまとめ・分析、⑤報告書の作成、の順に進めていく。夏休み中も、調査の準備やとりまとめのために頻りに大学に来てもらうので、アルバイトや部活動の時間を調整すること(ゼミ活動を優先してもらう)。また、ゼミの時間(水曜3時限)の後の水曜4時限にサブゼミを設定するので、可能な限り調整してほしい。	水・3
須山 聡	D	奄美大島の地域性	鹿児島県宇検村田検集落	6月26日～7月2日	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は奄美大島宇検村平田・阿室集落を対象に居住継続のための「集落点検」を実施する。奄美の集落はいずれも高齢化と人口減少に直面しているが、集落点検は、集落の維持・存続のための有効な具体案を住民との協働のワークショップによって考える、地理学の実践の場である。これまで、提案した内容のいくつかは実行され、集落に新たな活気をもたらしている。	木・3
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村と周辺地域	6月に4泊5日を予定	主な研究テーマは、農山村の暮らしの特徴と変容、商業や手工芸の実態、移住者の受け入れなど。課外の時間も使って、文献講読から地域調査の計画・実施、報告書作成まで取り組む。月曜1限の「村落地理学」を履修する人は、今年度にも履修すること。	月・3
谷本 涼	F	地方都市における交通と生活利便性の検討	長野県上田市	10月上～下旬 (3泊4日予定)	人口減少・少子高齢化の影響が顕著な日本の地方都市において、生活利便性やそれを保障するための交通・移動手段の確保は普遍的な課題である。本授業では、交通、産業、土地利用等に関する文献・統計を収集し、現地調査とGISでの分析を適宜組み合わせることで多面的に地域の課題を析出する手法を学ぶ。調査計画の立案、調査・分析の方法、論文の書き方を含む発表のしかたなどを学習し、調査報告を作成する。公共交通やアクセシビリティ・モビリティにかかわる諸問題に強い関心を持つ学生の履修を期待する。	火・4

地域調査入門(2, 3, 4年選択)両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
田中 靖	A	東京の地形と自然	関東地域	週末(主に土曜日) に6回を予定	自然地理学の現地調査において、どのような視点で景観を観察するのかを、身近な事例を通して学ぶ。事前学習(文献調査等)を行ったうえで、週末(主に土曜日)に日帰り巡検を複数回実施する。巡検地は受講者との話し合いによって決定する。	前期 土・2
小野映介	B	琉球諸島の自然と人々の暮らし	沖縄県島尻郡久米島町	6月後半 (2泊3日)	久米島は沖縄本島の西約100kmに位置し、火山とサンゴ礁から成る「美しい離島」である。久米島ならではの地形・地質、動植物といった自然環境のほか、農業・漁業、観光業など人々の暮らしに関する「地理学的な見方」とフィールドワークの基礎を学ぶ。参加者は、羽田-那覇-久米島の往復航空券代とホテルの宿泊費(合計7万円程度)を負担する必要がある。現地の人々との交流を含めて「フィールドワークを楽しみたい!」という気持ちを持っていることが参加条件である。	前期 金・3
平井幸弘	D	ジオパークにおける自然地理学の視点	長崎県の島原半島地域	10月下旬～11月初 に2泊3日	ユネスコ世界ジオパークもある島原半島において、特徴的な火山地形、過去の災害と防災、地域資源を活かしたツーリズムなどに関し、地形調査、自然災害伝承碑の検証、インタビューなどを実施、平成新山ネイチャーセンターほかを訪問する。	後期 火・4
須山 聡	E	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村部連・石良集落	8月7～10日 and/or 9月10～13日	旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。部連は人口27人、石良は100人たらずの小さな集落であり、豊年祭の準備・実行の人手が足りない。単に祭りに見物するのではなく、豊年祭の担い手としての役割が期待される。住民のみならずとも豊年祭に関わることで、集落の維持・存続に関する知見を得る。	後期 水・4
西山弘泰	F	雪国の生活とまちづくり	青森県青森市	10月と12月 (1泊2日×2回)	本講義では、青森県青森市を対象に、文献や統計分析、現地調査から当該地域の自然環境や歴史・文化、産業、人口などの特徴を見出す技法を身に着ける。1回目の巡検では、大まかに青森市の現況を把握し、2回目の巡検では、班ごとにテーマを設けて調査を行ってもらう。毎回課題が出るので、課題に取り組む時間を確保しておくようにしてほしい。また講義が長引く可能性があるため、5時限に講義が入っていないのが望ましい。	後期 火・4

地域環境演習(3年選択必修)

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	前期は、日本の湖沼の現在の自然地理学的課題について文献を中心にレビューする。前期末と後期前半に、関東地方の特色のある湖沼(例えば霞ヶ浦、濁沼、富士五湖、諏訪湖など)のうち2カ所ほどに出かけ(それぞれ日帰りまたは1泊2日程度)、フィールドワークを実施して報告書をまとめる。	水・4

地域環境調査法(3年選択必修)

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
平野淳平	A	諏訪地域の気候環境	長野県諏訪市と周辺地域	8月中旬～下旬頃 (3泊4日を予定)	文献調査と現地調査の両面から地域環境調査の方法を学ぶ。本年度は長野県諏訪市及び周辺地域を対象として小気候観測と気候災害に関する調査を行う。具体的には諏訪湖周辺での気温分布の移動観測、風向・風速観測データの分析、GISやGMTなどのソフトを用いた観測データの地図化を行う予定である。調査後は調査結果をもとに報告書を作成する予定である。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山周辺の自然環境・防災・地域振興	群馬県長野原町・嬬恋村周辺	7月下旬～9月中旬 の3泊4日	浅間山周辺地域の自然環境(地形・植生・水文・風穴など)を中心に、それを活かしたツーリズムや自然災害への対応について調査を行う。班別に調査テーマを決め、地形・植生調査は地元専門家に協力を仰ぎながら実施する。また、観光や防災に関する調査では、観光客や地元住民へのアンケート調査、関係機関へ出向き聞き取り調査を行う。	水・2
鈴木重雄	C	阿蘇の自然環境と人の関わり	熊本県阿蘇地域	10月上旬の3泊4日	阿蘇地域では、火入れによって形成された広大な自然草場が広がるほか、ミヤマキリシマ等の群落など多様な植生景観を観察できる。授業では、植生・地形・気候・水文などの自然環境のほか、圃場整備や改良草地による里地景観変化・湧水利用などの自然利用について調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前には文献の講読を行い、調査計画を立案し、調査後は調査結果を報告書にまとめる。	水・4
田中 靖	D	能登半島の地形変化と復興ツーリズム	石川県・能登半島	10月中旬に3泊4日を 予定	能登半島の地形・地質を軸に、2024年の地震・豪雨災害とその後の復興の取り組みについて総合的に検討する。前期は論文講読とGIS・現地調査法の基礎を学び、後期は現地調査とデータ分析、報告書作成に取り組む。自然現象と人間活動の相互作用を地理学的視点から分析する力の養成を目標とする。	月・3
小野映介	F	自然災害から人々を守るために地理学は何ができるか	新潟県新潟市(越後平野)	5月下旬の1泊2日・ 10月前半の2泊3日	近年、自然災害の激甚化が問題となっている。地理学は、防災・減災の鍵を握る学問分野である。越後平野を対象として、洪水災害・地震災害(液状化災害)・飛砂災害・雪害・海岸侵食などに焦点を当て、災害に対する脆弱性が生じる構造を明らかにするとともに、人々の生命と財産を守るための方策を探る。ただし、自然環境は人間に脅威を与えるだけの存在ではない。氾濫原や砂丘の地形環境を生かした都市的・農業的土地利用、人間の開発行為に起因する「環境問題」などを考察したい学生も積極的に受け入れる。	水・3

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。